

海外大学に留学するメリット わが子の可能性はどのくらい広がるのか

世界を舞台に 人生の可能性を広げたい

近年、日本の若者は内向き志向だといわれて久しい。しかし、日本の高校から海外の大学へ留学するためアゴス・ジャパンの門を叩く若者の数は、ここ2〜3年で3倍ほどに増えているという。その背景の一つにあるのは、日本に留学ブームが起きた80年代半ばに留学した人たちが、親の世代になっっていること。「こ

のまま日本の教育だけを受けさせていいののか」と危機感を持ち、海外留学を後押しする保護者も多いそうだ。

また、その逆で、「世界に通用する人間になりたい」と考え、反対する保護者を懸命に説得して、アゴス・ジャパンにやってくる頼もしい若者も増えているとのこと。「めざせば手が届くんだ、という意識が若者たちに広まっています」と、代表の横山氏は手応えを感じている。

「世界を舞台に人生の可能性を広げたい」と思っている人たちが、10〜20代のうちにできる最も現実的な選択肢が海外留学。もう、国内・海外と分けている時代ではありません。世界のどこにいても力を発揮できる人材にならなくてはならないのです。私のグローバル人材の定義は、『どこでも誰とでも自分らしく振る舞える人材』です。今、自分ができ

ていることが、どこに行ってもできるようなればいいわけです。海外を特別視し、大きなハードルと思ってしまう。そういうハードルをなくしたいというのが私の思いです。」

横山氏自身は中2から親の仕事の関係でイタリアに移住。高校時代はアメリカ・ロサンゼルス、大学は両親と離れてUCCLAの言語学部で学び、卒業後に帰国した。そんな横山氏の人生のミッションは、「世界を舞台に自分らしく生きることを応援する」——留学もその一つだと笑顔を見せる。

4年制大学への留学は 生き様を身につける場

日本と海外。教育の大きな違いはどこにあるのか。日本語では「教育」、英語では「Education」だが、それらは異質なものと横山氏は説明



アゴス・ジャパン
代表 横山 匡 氏

に違うものなので、大学以降は自分に合ったほうを選ばないでしよう。日本の教育は底辺が高いので、先生主導の教育を受けた人は与えられたものに対しての反応能力が高いので、従業員・としては優秀になれる。そういう人たちが7〜8割いる日本はすごい国です。しかし、そうではない人たちが、特にトップ層は、雇われる側ではなく、自分の人生を導きたい側なので、答えを求め『教育』ではなく、自分に対して問いを求める『Education』が必要でしょう。」

また、ひとりで海外留学といっても、学部(4年制大学)留学と大学院

留学はまるで異質なものだ。

「大学院は、プロになるための能力、キャリア、知識を上乘せしたり深掘りしたりするための場所。一方、学部は、知識を得る場所でもありますが、それよりむしろ知識を求め合う仲間と一緒に生き、自分の生き様を身につけるための場所です。だから学部留学は、実は大人が言うほど『何を学ぶか明確な目的』がまだなくてもいいのだと思います。」(横山氏)

海外トップスクールへの 合格が可能な理由

欧米の大学への留学は書類選考

で決まる。英語を母語としない人の英語力を判定するTOEFLやIELTSテスト、アメリカの大学進学希望者を対象とした共通試験であるSATなどの試験をクリアする必要があるほか、エッセイの提出も求められる。

海外大学留学の予備校があることは意外と知られていないが、アゴス・ジャパンは、そうしたテスト対策と出願対策をトータルにサポートしているのが特徴だ。同社は世界トップクラスの大学院やビジネススクールへの圧倒的な合格実績を誇っており、そのメソッドに基づいて高校生・大学生向けに開発されたプログラム

で、海外大学を目指す若者をサポートする。たとえば、ハーバード大、スタンフォード大、コロンビア大、オックスフォード大、シンガポール国立大など世界のトップスクール進学においての合格実績を見れば明らかだ。なぜ、そんなに高い結果が出せるのか。「当社は、この仕事が生きてきているスタッフばかりですから」と横山氏は語る。

同社は、海外大学・大学院進学に関心を持った保護者の方の個別相談も受けており、気になる留学費用の話から出願までの進め方など、幅広く相談することができる。また、現在の英語力を測りたい人のために、TOEFLとIELTSの無料模試も実施。さらに、卒業生を招いての体験談や学校説明会などの無料イベントを開いているので、詳しくはWEBサイトをご覧ください。

卒業生 Interview ①



野村 善文さん
Haverford College 2年生

高2の夏休みに、ハーバード大学の学部生などを招いて実施される「HLAB」というサマースクールに参加しました。その際、日本の高校からアメリカの大学に入った学生と知り合いになり、自分もそうしたいと考えるようになりました。それは、留学生が留学生のレッテルを貼られることもないほど、さまざまな国の学生がいる環境で学びたいと思ったからです。海外大学は、日本の大学を受験するのと違い、偏差値や模試の結果などで合格できるかどうかを予測することができません。そのため、何をどう勉強したらいいのかかわからず不安になります。そんなとき、アゴス・ジャパンのスタッフがいつも相談に乗ってくれたからこそ、がんばって合格できたのだと思います。留学してからは日米の常識の違いもわかり、寛容性が身につきました。

卒業生 Interview ②

佐久間 美帆さん
Williams College 2015年卒業



私は東京大学とアメリカのWilliams Collegeを併願し、1年生の8月まで東京大学に在学後、中退してWilliams Collegeに進学しました。日本生まれ日本育ちだったこともあり、はじめは日本の大学進学のみを考えていました。しかし、高校2年時に、全寮制・少人数教育を行うアメリカのリベラルアーツカレッジに通う姉のもとを訪ねたことをきっかけに海外大学受験を決意しました。留学を決意したのが高3の5月と遅く、短期間で効率良く受験勉強をする必要があったため、アゴスジャパンに通うようになりました。アゴスでは短期集中の講座が多く、ビデオ講座などフレキシブルな受講態勢があったことは、日米併願のためのスケジュールがタイトだった私にはとても助かりました。

最後に横山氏は、次のようなメッセージを送った。「日本の人口は今、世界の1・8%くらいですが、2050年には世界の1%になると予想されています。日本という、世界の1%のみの人間を相手にする選択肢に縛られず、世界で生きる人生を選んでほしいです。」

